

高齢者が安心して在宅療養を始めるには～医療介護専門職座談会

脳卒中や骨折など、病気やけがは誰でも突然起こる可能性があります、それをきっかけに在宅療養が始まる場合があります。その時にどんなサポートを受けられるのか、知っておくことはとても大切です。今回は、町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト(通称:町プロ)推進協議会メンバーで、日々医療や介護に携わっている専門職の皆さんに座談会形式で在宅療養に関するお話を伺いました。

【齋藤(美)氏(司会) 病気やけがで入院し、いざ退院となったとき、患者本人やその家族は自宅での生活に不安を感じると思います。実際に皆さんはどのようにサポートされているのでしょうか。

【五十子氏(医師) 病院では、患者本人が入院した直後から、退院して自宅に戻るための調整を始めます。病院にいる相談員が中心となって、本人とその家族だけでなく、地域の医療関係者や介護関係者と連携を進めています。例えば、かかりつけ医や訪問看護師、ケアマネジャーなどと話し合い、今後の在宅療養の進め方を共有し、介護保険の申請の支援などを行います。



五十子桂祐氏
町田病院院長。町田市医師会理事を務め、地域に根ざした医療を目指し、町田の地域医療の発展に尽力している。

【齋藤(秀)氏(ケアマネジャー) 私たち



齋藤秀和氏
鶴川サナトリウム病院居宅介護支援事業所所長。町プロ副会長・町田市ケアマネジャー連絡会会長を務め、市内のケアマネジャーと多職種の連携を強化する活動に尽力している。

ちケアマネジャーは患者本人が退院後の心身の状態に合ったサービスが受けられるように、住宅の改修や福祉用具、ヘルパーの導入準備など、自宅で生活ができる環境を整えていきます。その際、医療的な面については、かかりつけ医と連携して進め、自宅で生活できるようにしていきます。

【川村氏(医師) かかりつけ医は、入院先の医師から情報をもらい、患者さんが自宅に戻っても、継続して健康に関する相談や対応をします。通えなく



川村益彦氏
川村クリニック院長。地域のかかりつけ医として活躍するとともに、町プロの会長を務め、地域の在宅療養を促進する活動にまい進している。

なった患者さんには、往診や訪問診療を行うこともできます。また、退院後に病状が急変することもありますので、必要時には入院ができるように地域の病院と連携をとっています。

【五十子氏】 そうですね、私たち病院側も常時受け入れ可能な態勢にしています。

【齋藤(秀)氏】 準備をしても、病院から自宅に生活の場が変わることにより、問題が起こることもあります。例えば、薬が多すぎて飲み忘れが増えたり、



高橋克也氏
いずみ薬局管理薬剤師。在宅支援薬局の薬剤師として在宅訪問に力を入れる傍ら、町田市薬剤師会理事として薬についての講演会などの地域活動を行っている。

入れ歯が合わず硬いものが噛めなくなったり。そのような場合には、かかりつけ医と相談しながら、訪問薬剤師や歯科医師とも連携を図りますよ。

【高橋氏(薬剤師) 訪問薬剤師はかかりつけ医と連携し、患者さんの生活に合った薬の服用を管理しています。処方された薬を自宅へ届けたり、複数の病気を抱えた方に対して、薬を飲みやすくしたりしています。



奥主嘉彦氏
おくぬし歯科医院院長。訪問診療に尽力するとともに、町田市歯科医師会理事を務め、摂食嚥下(えんげ)について講演会や地域ケア会議などの地域活動に積極的に関わっている。

【奥主氏(歯科医師) 在宅療養における歯科の役割として大事なことは、「日々の食事をおいしく食べていただく」ことです。そのためには、噛めない、飲み込めないなどさまざまなお口のトラブルを解決する必要があります。患者さんの全身状態に応じた適切な治療に加え、虫歯や入れ歯など一般的な歯科診療を自宅で受けることができます。

【川村氏】 在宅療養を始めるときに、私たち専門職が円滑に支援を行うためにも、日頃から皆さんがかかりつけ医

をもち、健康に関することについて相談しておいていただきたいです。

【齋藤(美)氏】 地域の相談窓口である高齢者支援センターには、働きながら親を介護している方や、介護者自身が高齢者だという方からの相談も多く寄せられます。家族が少なからず負担を感じる人が多いと思いますが……。

【齋藤(秀)氏】 在宅療養生活を続けていくには、家族も無理をせずゆとりをもって介護することが大切です。例えば、短期的に施設に入所するショートステイや、日中に施設でリハビリ等をして過ごすデイサービスなども含め、医療・介護サービスを上手に利用していただければと思います。

【五十子氏】 医療依存度が高く、介護サービスの利用が難しい方には、治療することがなく経過観察だけの方が一時的に入院できる「地域包括ケア病床」が利用できます。市内の病院にもありますので、ぜひ選択肢の一つとしてお考え下さい。

【齋藤(美)氏】 そうなんですね。在宅療養を続けていくには、医療・介護サービスを活用していただき、介護する家族にとっても安心して暮らせるまちづくりを目指したいですね。



齋藤美和子氏
町田第1高齢者支援センター長。町プロ議長を務める。



町田市医師会会長(はやしクリニック院長) 林泉彦氏

町田市の高齢化率は26%を超え、医療や介護の需要が増加することが見込まれます。住み慣れた町田市という地域で、高齢になっても自分らしく安心して暮らし続けられるように、町田市医師会も町プロを通して活動を進めています。市民の皆さんには、町田市の在宅医療・介護についての取り組みをご理解いただき、安心していただければ幸いです。

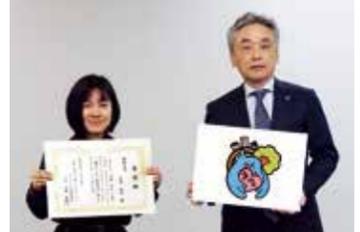


町プロのシンボルマークを作りました!

このたび、町プロの取り組みをより多くの方々に知っていただくため、シンボルマークを作成しました。デザインは町プロ推進協議会の構成団体員から募集し、市民を含む投票の結果、495票(全投票数1207票)を獲得した町田市高齢者施設部会の森田桃世さんの作品に決定しました。応募・投票にご協力いただきありがとうございました。作成したシンボルマークは、今後広く町プロの広報活動等に使用します。



シンボルマーク



左から森田さん、町プロの川村会長